

5162 朝日ラバー

横山 林吉 (ヨコヤマ シゲヨシ)

株式会社朝日ラバー社長

自動車関連事業が好調に推移し、増収増益を達成

◆2013年3月期第2四半期の決算概要

第2四半期累計期間の連結売上高は24億7百万円(前年同期比33百万円増、1.4%増)、営業利益は88百万円(同30百万円増、50.1%増)、経常利益は64百万円(同26百万円増、68.9%増)、四半期純利益は40百万円(同26百万円増、171.0%増)となった。設備投資額は、医療関連の生産設備や機能製品関連の新規設備などにより2億5百万円、減価償却費は1億75百万円となっている。

セグメント別では、工業用ゴム事業の売上高は18億73百万円(前年同期比99百万円増、5.6%増)、セグメント利益は1億43百万円(同76百万円増、114.0%増)となった。「ASA COLOR LED」をはじめとする自動車関連製品については、前年同期は東日本大震災による減産の影響を受けたが、当四半期はエコカー補助金の効果や中国など新興国市場での需要増加により、堅調に推移した。一方で、スポーツ用ゴム製品の卓球ラケット用ラバーは売上が落ち込んだ。

医療・衛生用ゴム事業の売上高は5億33百万円(前年同期比66百万円減、11.1%減)、セグメント利益は63百万円(同43百万円減、40.1%減)となった。顧客の大幅な在庫調整などによる売上減少に伴い、利益も減少した。

主要製品では、車のスピードメーターやカーオーディオなどの内装照明や特殊照明に使われている「ASA COLOR LED」は、売上高9億46百万円(前年同期比1億78百万円増、23.1%増)と好調に推移したものの、伸び率はやや鈍化している。卓球ラケット用ラバーは、顧客の在庫調整の影響と販売の低迷により、売上高1億46百万円(同73百万円減、33.2%減)となった。

医療用ゴム製品の主力は点滴輸液バッグ用ゴム栓や真空採血管用ゴム栓など、使い捨てのディスポーザブル用ゴム製品である。当四半期、新規開発製品の受注は堅調に推移したものの、既存主力製品が顧客の在庫調整の影響を受け、売上高は5億11百万円(前年同期比65百万円減、11.3%減)となった。

当社単体の実績は、売上高23億47百万円(前年同期比0.7%増)、営業利益63百万円(同24.2%減)、経常利益44百万円(同34.0%減)、四半期純利益22百万円(同58.4%減)となった。卓球ラケット用ラバーや医療用ゴム製品などは、原価低減に努めた結果、収益性の高い製品となっており、これらの売上減少が利益に大きく影響した。

連結子会社の状況であるが、ゴム・プラスチックなどの新製品開発を行っている(株)朝日FR研究所においては、販売管理費の増加などにより、経常利益が前年同期比34.9%減となった。また、アメリカの販売会社であるARI INTERNATIONAL Corpも、営業要員の補充などにより、経常利益は前年同期比65.8%減と大幅なマイナスとなっている。中国の香港と東莞にある子会社2社は、前期は大幅な赤字を計上したが、当第2四半期あたりから業績が回復し始めた。特に東莞朝日精密橡膠制品有限公司は、遅れていた自動車関連製品の生産がスタートしたことにより、売上が前年同期比108.8%増となり、利益面も黒字に転換している。また、本年1月に設立し6月から業務を開始した上海の販売子会社については、下期から実績が出始める見通しである。今後は販売だけでなく、設計

や技術提案を含めた展開を考えている。

連結貸借対照表の資産の部では、流動資産が前期末から 3 億 63 百万円減少した。これは設備代金の支払いや借入金の返済などに伴う現金および預金の減少によるものである。負債の部においては、流動負債が 2 億 29 百万円減少した。これは主に支払手形や買掛金などの仕入債務の減少、未払い法人税等の減少によるものである。また、固定負債の 1 億 40 百万円の減少は、長期借入金の返済に伴う減少によるものである。

◆2013 年 3 月期決算の見通し

今期の連結売上高は 47 億 70 百万円(前期比 4.8%減)、営業利益は 1 億 47 百万円(同 39.6%減)、経常利益は 1 億 5 百万円(同 50.4%減)当期純利益は 60 百万円(同 17.6%減)と、5 月発表の業績予想を修正し、減収減益の見通しとなった。

セグメント別では、工業用ゴム事業の売上高が 37 億 75 百万円(前期比 1.0%減)となる見通しである。自動車関連製品は、エコカー補助金の打ち切りや中国国内での日本製品不買運動などの影響により、今期後半の伸び率はかなり低いものととどまると予想される。また、スポーツ用ゴム製品の卓球ラケット用ラバーは、引き続き顧客の在庫調整や販売の低迷により受注減となる見通しである。

医療・衛生用ゴム事業の売上高は 9 億 95 百万円(前期比 17.0%減)となっている。医療用ゴム製品において、新規開発製品の受注は堅調に推移するものの、既存主力製品では顧客の在庫調整は今期後半も続くものととらえている。この医療ゴム製品と卓球ラケット用ラバーという収益性の高い製品の売上減少が、全体の利益悪化の大きな要因となっている。

設備投資については、今後も医療関連や機能製品関連の新規設備などに、通期で約 5 億円の投資を行う。減価償却費は 3 億 90 百万円となる。

なお、今期、中間配当として 3 円、期末配当として 5 円、年間で 8 円の配当を予定している。

◆中期経営計画の進捗と今後の展開

昨年 4 月、3 年間の中期経営計画をスタートさせた。この計画においては、リーマンショック以前の業績水準である売上高 62 億円、営業利益 4 億円、経常利益 3 億円まで回復させることを目指し、照明関連事業、医療関連事業、機能製品関連事業の 3 事業を重点事業として位置づけている。しかしながら、そのうち特に照明関連事業と機能製品関連事業について、現状のまま推移をした場合、目標とする売上に対して数億円の未達が発生する見通しとなった。このような状況を解消するため、次のような施策を行っていく。

まず、照明関連事業においては、主力製品である「ASA COLOR LED」の色や明るさなどの性能を更に高め、カーオーディオメーカーや電装メーカー、各種スイッチメーカーを通じて、欧米の自動車メーカーへの参入を図る。また、店舗照明や施設照明などの特殊照明分野での売上拡大、そして「ASA COLOR LENS」や「ASA COLOR RESIST INK」の販売促進に注力していく。

機能製品関連事業においては、RFID タグ向け新製品の生産がようやくスタートした。ポテンシャルの高いマイクロ TAS 事業の本格的生産は 2014 年度となる予定であるが、前倒しをして、この中期での売上に寄与できるよう取り組んでいく。

医療関連事業においては、ニーズが高まっているディスプレイ製品の拡販を図る。今期総額 2 億 50 百万円の設備投資を行い、新規開発製品の量産をスタートさせる。これにより中期目標を達成していきたい。

また、自動車関連製品や LED 照明関連製品では、拡大を続けている中国市場をはじめ海外での活動を更に強化し、2012 年 3 月期は 10%程度であった海外向け比率を、2014 年 3 月期には 20%まで高める計画である。金額ベースでは 12 億円を目標としている。

11 月 22 日、当社の持つ分子接着技術やマイクロ加工技術を応用し、開発したマイクロ流体チップが、日本電気

(株)により開発されたポータブル型 DNA 解析装置の DNA 分析用チップとして採用されたことをプレスリリースした。

当社のマイクロ流体チップは、シリコーンゴムの持つさまざまな特性を生かし、①積層化による複雑な流路設計が可能、②優れた耐久性、耐熱性、耐候性、③高い接着性により輸薬液の漏れを確実に防ぐことが可能、④安価でスピーディーな試作と大量生産が可能などの特長を持つ。参入する市場は DNA 解析市場がメインとなるが、医療関連やバイオ関係などにも展開を図っていきたい。

円高、EU の財政危機、そして中国における日本製品の不買運動など、当社を取り巻く環境は更に厳しさを増している。そうした中でも、今回発表した修正目標以上の業績を上げ、中期経営計画に対する未達部分を少しでも解消できるよう、全力で取り組んでいく。

◆ 質 疑 応 答 ◆

中国での事業が好転したが、今後の賃金上昇についてはどのようにとらえているか。

この間、約 20%上昇している。東莞市では数年間で賃金を倍にするという政策が出ており、今後、経営への影響は大きいと認識している。

「ASA COLOR RESIST INK」は他社製品に比べ、どのような優位性があるのか。

最大の特長は 95%という高い反射率である。また、シリコーンゴムの持つ耐熱性、耐候性を生かした、寿命の長い製品となっている。

RFID タグの来期の売上予想を教えてください。

現在の製品で 2 億円前後を見込んでいるが、今後、新しい展開も考えられる。

マイクロ TAS 事業の展開について聞きたい。

現在は試作の段階で、月に数十枚の生産だが、来年は年間数千枚のペースになるだろう。犯罪捜査のための DNA 解析のほか、今後は医療やバイオの分野での応用が考えられる。売上予想は、量産によって単価が低下することや、また分野によって価格体系も違うことにより難しいが、2017 年度にかけての拡大を期待している。

マイクロ TAS 事業の生産拠点とそのため設備投資額を教えてください。

生産拠点としては福島工場か白河工場を予定している。設備投資は、今期は約 1 億円となる見込みだが、量産体制に向けては受注量に応じたものになる。

(平成 24 年 11 月 26 日・東京)

* 当日の説明会資料は以下の HP アドレスから見ることができます。

<http://www.asahi-rubber.co.jp/ir/movie/index.html>